

# ふるさとわがまちづくり

## 西広瀬町自治区

### ◆「西広瀬町」の由来

「広瀬ヤナ」で知られる西広瀬町自治区は、矢作川右岸に沿って細長く伸びた所です。

その昔は、富貴下村と呼ばれ、大正時代には自家発電による電燈が燈されていたという進取の気性に富んだ土地柄でした。

戦前は60戸だった戸数が、現在は115戸です。この増加分もほとんどが新家です。それだけに、区民の結びつきの強さには自信があります。



ヤナによって区民が経済的に恩恵を受けるといふことよりも、ヤナへの観光客が増えることにより、東・西広瀬が一般に広く知ってもらえたことに利点があると思います。

### ◆「広梅橋」の完成

昭和5年、対岸の東広瀬町とを結ぶ広梅橋が完成しました。橋ができるまでは、舟で往き来していたのですが、梅村源次郎さん（東広瀬町・故人）の巨額の資金提供と東・西広瀬の人達の浄財によって橋が建設されました。広梅橋という名前も、広瀬と梅村さんの、それぞれ頭文字から名付けられたものです。

また、大正8年に自家発電による電燈が燈りました。現在の扶桑町で電気商をしていた築山さんという人の尽力で、飯野川から取水している農業用水の落差を利用し、発電をしました。当時は1戸1燈で、明かりも10ワットとローソクより暗かったのですが、全戸あげて喜びました。この発電は昭和25年まで続けられました。

### ◆観光名所「広瀬ヤナ」

広瀬ヤナは観光地として人気ですが、戦前は前にお話した梅村さんが個人で経営していました。戦後になって、ヤナ組合ができ、現在の隆盛をみたものです。

### ◆矢作川の見張り番

近年、河川美化が叫ばれていますが、この運動の発端が西広瀬小学校と当区民であることも、自慢のひとつです。矢作川本流をはじめ飯野川が以前の清流を取り戻したのも、小学校を中心に区民が一致団結して水質監視に取り組んで、こうした運動が全市に広まったことに満足感を味わっています。

### ◆現在の課題と将来に向けて

西広瀬町は、山と川のある自然に恵まれた土地であり、最近では農業後継者がいないため、休耕地となった土地が沢山あります。地理的には、豊田市中心部から車で30分以内の位置にありますので、今後は豊田市民のための、山と川のある自然公園地域として再開発され、また、近郊の貸し出し農地などとしても利用されるようになれば活性化すると思います。

さらには、市街地調整区域でありながら、住宅建設もできるようになりましたので、新しく住む人が増え、今より少し人口が多くなることも希望しています。



広梅橋より上流部



広梅橋より下流部



5月 区民運動会



7月天王祭り 子どものお囃子



8月盆踊り

### 西広瀬自治区データ

(H20.4 現在)

世帯数：115世帯  
：85世帯（昭和51年）

組数：8組

面積：5.71Km<sup>2</sup>

自治区たより：「西広瀬」年4回

回覧：月2回

ちびっ子広場：1箇所

ふれあい広場：1箇所

防犯灯設置箇所：29箇所

小学校：西広瀬小学校区

自治区会館：西広瀬町公民館